

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福社会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成20年2月 第84号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

介護は長寿の贈り物

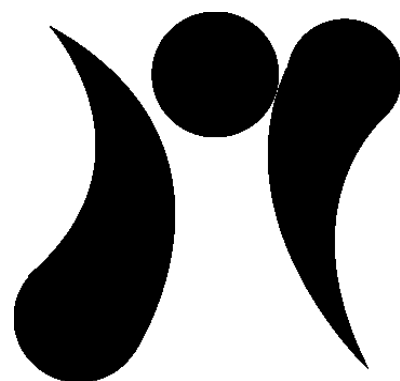
超高齢社会を控え、いま介護に注目が集まっていますが、注目されている割には介護の評価は低いように思われます。介護現場では介護保険単価の切り下げと人材不足に悩んでいます。職員募集をしても応募者が少なく、離職率も高いのは全国的な傾向です。個人的にも多くの方が、『介護で子供に迷惑を掛けたくない』との想いを強く持ち、要介護にならないように、介護予防に努めています。しかし、日本の高齢者の平均要介護期間は約7年であり、人生の中で無視できるほどに短い期間ではありません。老いの過程で介護を要して生きる事の意味や価値を問い掛け、深く考える必要があるように思います。

人は古来、死を恐れ、自然を崇拝し、月や太陽に祈りました。優れて強く死を意識する人が、芸術を生み、宗教や思想を伝え、多くの方が死を前にして、感動や安心を得て暮らす事ができました。

現在においても老いと死は自然の摂理であり、高齢期に入った人は当然に死を意識しなければならず、高齢期の親を抱えて、子は当然にその死を覚悟しなければなりません。その意識や覚悟を支える芸術や宗教や思想は、自然界で人間のみが持つ営みであり、遺伝子では伝わらないのです。

老いた親の死に真摯に向き合うとき、苦悩や葛藤の中で多くの事を経験し、学び、諦めを知ります。その経験が永く心に潜んで、自らの老いを生きる思想や価値観を確立する為の原体験となり、そしてまた、自らの老いと死を通して、我が子に原体験をさせるのです。その繰り返しの中で、千の風になって大空を吹きわたる命の存在を信じる心が育まれるのだと思います。

(次ページにつづく) せいりょう園 渋谷 哲



(前ページのつづき)

遺伝子情報が全てを伝えるなら、長い高齢期の暮らしも要介護の期間も不要ですが、人は遺伝子では伝わらない思想や価値観を持つからこそ、死を目前にしても、尊厳やQOLを見い出す事が可能になるのです。

要介護期間は貴重な原体験の宝庫であり、言わば長寿ゆえの授かり物です。高齢社会に暮らす者にとって、介護は迷惑ではなく、長寿の贈り物です。大事なチャンスを見逃さない眼を持ちたいと心より願います。一つの滅び行く命の側に居て生命の営みを実感し、個体の死が生命活動にとっての通過点に過ぎない事を知って下さい。ことぶき(寿)の命が千の風に変身する過程に寄り添う介護に従事できる喜びを、介護の現場で出来るだけ多くの方々に感じ取って頂きたいと、心より祈念致します。その現場からの風が、幾千万の風になって世界を変えることを信じます。

*** * * * * せいりょう園の行事予定 * * * * ***

2月2日(土) ドルチェコーラス	2月22日(金) 介護者の集い
2月3日(日) 節分	～グループホームより～
2月4日(月) 仏教講話	“認知症の方の生活支援について”
2月6日(水) 誕生会	2月25日(月) 理容の日
2月15日(金) 昼食会(すき焼き)	2月26日(火) 外出
播磨学園の園外実習	2月27日(水) 郷土料理
2月18日(月) 美容の日	(鯛めし)



*** * * * ***

せいりょう園待機者状況 <平成20年 2月19日現在>

判定済み者(253名)の内訳

グループ...94名 / グループ...97名 / グループ...53名 : 計244名

他施設入所...3名 / 死去...5名 / 入所...1名

判定済待機者(244名)の内訳

在宅85名 / 特別養護老人ホーム入所中6名 / 医療機関入院中63名

老人保健施設入所中76名 / ケアハウス入居中7名

グループホーム入居中6名 / 有料老人ホーム入所中1名

仏教講話より

デイサービス 谷澤 高明

平成 18 年 12 月から始まった仏教講話も足掛け 3 年目に入った。今回は市内八幡町宗佐にある曹洞宗、常観寺から玉置住職が来て下さり講話を頂いた。曹洞宗は「永平寺」と「総持寺」を本山とする禅宗の一派である。

冒頭、「私は自分がこの世に生まれて来た事の不思議というか、その巡りあわせに神秘性を感じています。」の言葉から始まった。

「自分の父も禅宗の僧侶でした。ずっと妻帯は禁止されていたのですが父親の代になって妻帯が許されるようになり、私が生まれました。このような変化が無ければ私がこの世に生を受けることはなかったのです。」

人が誕生するには、先ず両親が必要です。又、その両親にも夫々両親がいます。身近に感じられるだけでも少なくとも 6 人の人がいて始めて人の誕生があるのです。これを 15 代遡って数えると 15, 000 人もの人に関係していると言われます。その 15, 000 人の内の誰か一人でも存在していなかったら、又存在していても、何かのタイミングが狂っていたら、その人の誕生はあり得ない事になります。こんなことを考えると、人がこの世に生を受けることは何と不思議な巡りあわせと、限りない偶然の積み重ねの産物かと身震いする気がします。」

「この世に生を受ける」から講話の内容は次へと展開していく。

仏教では、この世に生を受けるものは二度この世に生を受けるものと説き、その一生は空(無)から生まれ、存在し、滅して又空(無)にもどると説く。しかしこの「無」は空っぽ、何ものなしを言うのではなく、次の「生」を生むエネルギーそのもので、これを般若心経で「色即是空」・「空即是色」と説くと話される。

私(谷澤)の父は末子であった為、我が家には仏壇も無く、自然とお経とは縁がなかったのだが、両親を送り法事を重ねる度に耳にする「般若心経」、「色即是空」・「空即是色」は耳に残っている。「英雄色を好む」、「色気より食い気」といった言葉もあるとおり一般に「色」という言葉は何か性的なニュアンスがある。従って「色即是空」とは、「とにかく色事は虚しいものだ・・・」位にしか考えが及ばなかったが、ここでいう「色」とは、目に見えるもの、形作られたものという意味で、犬も猫も花も木も勿論人間も全てが「色」と表される。しかしそれは時々刻々と変化しており、今日の自分は昨日の自分ではなく、明日の自分でもない。色には不変の実体は無く、実体がないからそれは「空」である。従って「空」は次の「色」を生み出すエネルギーである。

先述のこの世に二度生を受けるということを、仏教の世界では「輪廻転生」という。日本では人が亡くなったとき「逮夜」を七度行うのは「その間に亡くなった人が少しでもよい環境の所に生まれ変われることを念じての事で、その間のことを「中陰」といい、日本では 49 日をいう。「満中陰志」とは、その期間が無事終了した(次の生を受けることが出来た?)ことの報告をお世話になった方々にし、生前のお礼を表すものである。

以前、「満中陰志の即日返し」をテーマに園長が話されたが、現在の人達が何気なく行っている事柄の意味とやることの意義を改めて考えさせられる一時でした。

「恨み辛みを捨て、この世に生をうけたことを両親、ご先祖、神、仏に感謝し、『今』、『この時』を大切に生きたい、生きようではありませんか。」という言葉で終えられた。

介護現場発信情報

～かけがえのない^{ひととき}一刻を～

訪問看護より



看護師 吉原 晴美



看護師になって20数年、その間には出会い、別れを幾度も幾度も繰り返し、その度に少しずつではありますが人間関係を築く為に最も必要とされる『聴く力』や相手の立場に立って思いを感じとることが出来るようになってきたのではないかと思います。昨年も色々な別れがありました。訪問看護師として、最期の時を迎えるまで出来る限りその人らしい暮らしを送れるように支援していますが、「思うように死ねない」という方もおられ、利用者の思い通りにならない最期の時の過ごし方に落差を感じた事がありました。その頃に『最期までその人らしく生きるために～ターミナルケアを考える～』という研修に参加する機会がありました。その研修でも私達が取り組んでいる利用者の尊厳を守り、自己決定を尊重しながら最期の時を迎えるまで出来る限りその人らしく送れるように支援し、一人の人が生き抜いて死んでいく過程に寄り添う事や、上手く託せなかった場合も、上手く託せた場合もすべて含めてその人の生き様と言われた。少しほっとした。その後『傾聴』についての講演もあり、そこでの内容が訪問看護師の私に刺激を与えてくれました。

『傾聴』とは相手の話を自分の評価や批判、意見を一切挟まず心を込めて聴くことです。人は誰でも元気な時でさえも誰かに「聴いてもらえる事」を必要としています。まして孤独・病床にいる時・老いて死に直面している時等は、心の想いに耳を傾けて共感してくれる人がいるというだけで心丈夫なものです。様々な想いや願いを心から聴いてもらった時、気持ちが落ち着き楽になり、生きる力が湧いてくると思います。決して答えがでなくても・・・そこで今すぐに出来る傾聴ポイントを紹介します。

辛抱強く聴く

- ・ 聴き役はしゃべらないこと 聴く事に徹底・話す時は相づちくらい・相手の顔を見てうなずきながら聴く。
- ・ 間を作ること 話し手の言葉が切れた時が「間」その「間」は話し手が考えている話し手の時間。
- ・ 質問されたらその事だけを手短かに答えること 文章にすると一行程度。

共感して聴く

- ・ よい相づちを打つこと 時々相手の言葉を繰り返す。どんどん話してしまうような「なるほど」「そうなんですね」「本当そうです」「うんうん」等の相づちを打ち、話せる空気を作る。
- ・ 相手の気持ちを理解するように努める 「何故そのように思うのか?」「何故今それを言うのか?」「寂しいのか?」等考えながら言葉と同時に気持ちも聴こうとする。

尊重する

- ・ 社会的・法的・倫理的・人道的に間違った話をしてもらってもそれを尊重する 賛同はしなくても良い、気持ちは尊重する。
- ・ 相手の気持ちを理解するように努める 話し言葉は論理的でない事が多い、文章が変でも気にしない。

否定しない

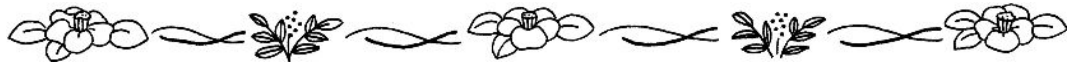
- ・ 「でも」「しかし」「けれど」「ただ」等は使わない 接続詞を使わない。
- ・ 考え方を否定しない 特に否定詞がでるとその後は必ず必然的に否定的な文章が続くので言わない。

質問する

- ・ 不便や不安に思っていることが無いのか聴く 言いたいけれど言えないのか質問する。
- ・ 何か要望があるか聴く
- ・ オープンクエスチョンにする 答えが「はい」「いいえ」にならないような質問をする。

「聴く力」を身に付ける事でコミュニケーションが上手くいくようになると思います。

一度お試し下さい。



グループホーム憩の家より

迎山 加代子

『せいりょう園グループホーム憩の家』に勤務して早、7ヶ月が過ぎました。資格も経験もない私ですが、人の役に立てる仕事が出来ればいいなあと思っていました。

その反面、迷いもあり、友達に相談してみると「最初は誰だって未経験なんやから。後はやる気があるか？お年寄りが好きかじゃないの？」等と私の背中を押してくれました。最終的にはお年寄りが好きだし、こんな私でも人の役に立てれば嬉しいと思い、介護職の道を選びました。

『憩の家』に勤務して数ヶ月は炊事・掃除・見守り・食事介助等、無我夢中でした。早く覚える為に大切なのは観察だと思い、先輩方の行動や利用者の方々の動きを勉強させていただきました。

仕事をしていく中で困難に思った事は、入浴拒否をされる方への声掛けで、一度「今日はお風呂に入る日ですよ。行きましょう」とストレートに声掛けをして拒否をされた事がありました。後で先輩にフォローをしてもらい、「健康かどうかみてみましょうか？」と血圧を測り、服を少し脱いでもらって体温を測りながら「マッサージも少ししますので・・・」とお風呂場に行っていただく等のアドバイスもしてもらいました。その方に合った自尊心を傷つけないような声掛けをし、誘導し、介助出来るよう心がけていきたいと思えます。

今まで『憩の家』で頑張ってきたのは、先輩や後輩職員の皆の励ましの言葉や利用者の方々の笑顔に癒され、力をいただけてきたからだと思えます。

介護職は3Kとも言われ、あまり良いイメージがなかったのですが、自分が一生懸命尽くせば、利用者の方の「ありがとう」が自然に出ます。そんな「ありがとう」に励まされながら、今日もまた頑張ろうと思えます。私は、この道を選んで、また今日も頑張ろうと思わせて下さる利用者の方々に感謝し、勉強していきたいと思えました。

ケアハウスより

ケアハウスに異動になって



一岡 久代

ケアハウスに異動になって早6ヶ月目になりました。毎日が早く感じられます。異動当初はパソコン・印刷等事務業務に悪戦苦闘の日々が1ヶ月～2ヶ月続きました。私自身この事務的な処理ができるかどうか不安・あせり・ストレスが何日続いた事でしょう。

やっと現在では、パソコン等も50%ですがマスター出来、日々の業務に支障のない程度になりました。まだまだですが・・・

また、少し余裕が出来、周りをゆっくり見つめる事が出来てきました。ケアハウスの皆様方は、自立から要介護度5と身体状況は様々ですが、それぞれ自分達の生活を大切に毎日過ごされています。散歩がお好きで毎日出かけられる方、廊下をシルバーカーで何往復もされている方、部屋に一日居ると長く感じられるとほぼ毎日外出される方、部屋で決まった時間に体操されている方、ゲートボールをされている方、芝居がお好きで芝居のある時は必ず出かけられる方等、様々なライフスタイルがあり、現状を維持できるよう、その方なりに工夫されたりと気をつけて生活されています。

ケアハウスを終の棲家として過ごしていただけるよう手助け、耳を傾けていきたいと思えます。

ケアハウス等空き情報 <平成20年2月18日現在>

<ケアハウス>

- | | | | |
|-----------|-----------|-------|-----------|
| ・めぐみ苑 | : 1人部屋 3室 | ・青山苑 | : 1人部屋 2室 |
| ・シスナブ御津 | : 1人部屋 1室 | ・香楽園 | : 1人部屋 1室 |
| ・清華苑シバライフ | : 1人部屋 2室 | | : 2人部屋 3室 |
| ・アゼリア | : 1人部屋 3室 | ・あさなぎ | : 1人部屋 1室 |
| ・保月の郷 | : 1人部屋 2室 | | |
| | : 2人部屋 1室 | | |

<バリアフリー賃貸マンション>
リバティかがわ: 1室



[問合せ] せいりょう園介護相談室 (079)421-7156 / (079)424-3433

せいりょう園のびのびルームボランティア募集

お年寄りと共に午後のひとときを過ごしてみませんか？

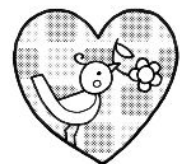
都合のよい曜日にお手伝いをお願いします。(13時～15時)

○月&木曜日：自彊術（自彊術の先生が来られますので一緒に体操してください）

○火曜日：映画会 ○水曜日：カラオケ

[問合せ] せいりょう園 TEL(079)421-7156

担当 北野(キタノ)



地域にとって地域包括支援センターとは

高齢期に入り、介護が必要になるにつれ、介護施設への入所が最善の選択として浮上してきます。そして、特養やグループホームに入所しても、その最期は病院で迎える人が多数となっています。

老いて死を迎える時期が来て、最も安定して落ち着いて過ごすべき最期のときを、ご本人もご家族も揺れ動きながら右往左往し、医療処置に身を委ねながら、死を受け止める覚悟を決めかねています。本当の看取りは一度きりですが、その危険性を感じて何度も入退院を繰り返す人が多数います。それが、高齢者医療費の増加に結びつきます。

昨年度から創設された、在宅療養支援診療所、特養の看取り介護加算、グループホームの医療連携体制加算、介護療養型医療施設全廃の方針、今年4月からの後期高齢者医療制度の創設、と続く制度改正の目指す処は、地域におけるターミナルケア・看取り介護の実現にあると思われま。地域社会にとって現在の最も重要な課題は、介護予防ではなく、看取り介護が地域で実現できない事なのです。

コミュニティケアとケアマネジメントは、高齢者が地域社会の一員として最期まで暮らし、少ない費用負担で精神的には高い満足感のあるターミナルケアを実現する為の、欧米を始め世界に共通する理念と手法です。80年以上を生きてきた人が、その最期を迎える時を右往左往して慌しく迎えるのではなく、自然の摂理に添った最期を毅然として静かに迎える事のできる思想と叡智を持ち、千の風の吹きわたる地域社会を実現したいと願います。

行政の権限と責任、地域福祉のネットワーク、介護事業者の専門性、介護保険事業の市場性、などが適正に絡み合って、地域ケアシステムが有効に機能する社会を実現するキーステーションが、地域包括支援センターです。その運営主体には、思想的にも社会規範の側面からも、厚い基盤と高い信頼性を持つ法人が求められます。保健師・社会福祉士・主任ケアマネジャーの3職種の職員配置については、行政と介護事業者の協力を得て、出向や派遣・委託など様々な工夫も可能であり、地域包括支援センターの運営委託については、社会福祉協議会が、主体的かつ積極的に関与しリードされることを望みます。

来る3月18日には民間法人への運営委託の方針について、加古川市より関連する法人や企業に対して説明し意見を聞く会があります。我々も是非参加し、行政の方々をはじめ、様々な視点からの多様な意見を聞き、加古川の地域福祉の将来像について議論し、貢献したいと願っています。(会は3月18日午後3時より加古川市総合福祉会館101・102会議室にて行われます)

第三回グループホーム 運営推進会議の報告

日 時 平成19年12月15日(土) 14:00～16:00
場 所 リバティかこがわ2Fホール
参加者 推進委員 6名 利用者家族4名 職員 2名

議題1. 行事報告

ロンドンアンサンブルに初めて参加された家族の感想

いつも職員にお願いして本人のみ参加していたが、今回仕事の都合もつき、初参加。母が涙を流し聴いている姿に胸を打たれた。

2. 感染症について

質問①来訪時に母の食事介助をしているが、問題はないか？

手洗い・うがいをして介助していただければ問題ない。
気になる点があれば、マスク着用して下さい。

質問②ノロウイルスの疑いがあった場合、下用タオルは他の物と一緒に洗ってないか？

疑いのある物だけで洗っている。場合によってはウエス（使い捨て布）で清拭し処分している。

3. ショートステイ時の介護事故、訴訟について

毎日新聞の記事（パンを詰らせ死亡）

参加者より

- ・せいりょう園はちょっとした事故でも連絡してくれる。要は信頼関係があるかどうかではないだろうか。
- ・施設側の説明にも不信な部分もあり、職員の対応にも問題があった。
- ・それにしても賠償金額（1,500万円）が高すぎる。
- ・意図的に行われた行為は問題だが、うっかりレベルは利用者本人にもある程度の責任があり、仕方ないと思う。
- ・あまりにリスクを恐れすぎ、何もさせずにレベル低下する事は本人にとっても不幸な事ではないか。
- ・昔は近所の高齢者がもちをのどに詰まらせ、亡くなった話などをよく聞いた。それも本望だろうとお祝いしたもののだが。

4. せいりょう園機関誌「予防と看取り」、「老いの生き様と介護事故」の読み合わせ、意見交換

園長より

- ・その方がその方らしく生きる（死ぬ）とはどういう事か。
- ・どんな状態であれ生きておられる事に価値を見出すとはどういう事か。
- ・その方の生き様、死に様をどうとらえるか。
- ・宗教との関係について

等、施設側の考えを話し、今後の協力関係の維持強化をお願いする。

議長のまとめ

施設にまかせてしまうのではなく、小さな事でも連絡を取り合う環境が大切。本日の意見交換等から、お互いの信頼関係の深さを知ることができ、大変嬉しく思いました。